

警視庁赤坂警察署 TOKYO交通安全キャンペーンin迎賓館

去る12月4日(土)にTOKYO交通安全キャンペーン(12月1日~7日)の一環として、迎賓館赤坂離宮の前庭で、警視庁赤坂警察署による交通安全キャンペーンが実施されました。

当日はシートベルト横転体験、飲酒ゴーグル体験のほかに、警視庁騎馬隊による「ふれあい乗馬体験」で乗馬体験をしたり、白バイと一緒に写真を撮ったりして、親子連れも楽しく交通安全を学びました。



横断歩行訓練では、横断する前にしっかり左右を確認して、手を上げて渡りました。



シートベルト横転体験では、車が横に倒れると椅子から落ちそうになりますが、シートベルトをしっかり締めていれば、シートベルトが体を守ってくれることを体験しました。

飲酒ゴーグル体験では、飲酒ゴーグルを付けて飲酒状態を疑似体験してもらい、飲酒運転の防止を呼び掛けました。



参加者に啓発品を配布して、交通安全を呼び掛けました。



憧れの白バイにまたがり、写真を撮パチリ!



「交通事故で家族を亡くした子供の支援に関するシンポジウム」開催 ～交通事故で親を亡くした子供の支援～

去る12月2日(木)に標記シンポジウムが新型コロナウイルス感染防止のため、オンライン配信で開催されました(主催:警察庁 後援:文部科学省 協力:(公財)交通遺児育英会 (一財)あしなが育英会)。

本シンポジウムは交通事故被害者サポート事業の一環として、交通事故で家族を亡くした子供の周囲にいる保護者や支援に携わる方等に対して、必要な支援や課題等について広く発信することを目的としています。

当日は、専門家による講演、対応事例、ご遺族体験談の発表、パネルディスカッション等が行われました。このようなシンポジウムが開催されることによって、交通事故で家族を亡くした子供たちに対する理解が更に深められ、被害者等への支援活動の充実につながることが期待されます。

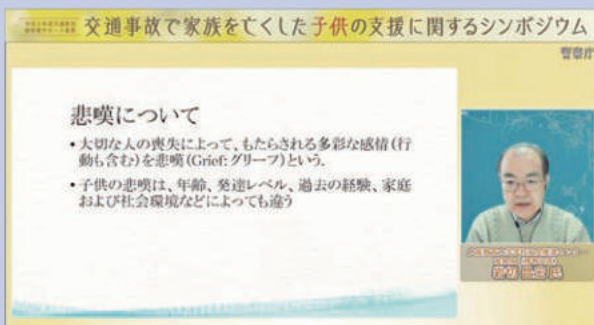


主催者挨拶
令和3年度交通事故被害者サポート事業検討会委員
警察庁交通局調査官
遠藤 健二氏

講演: 岩切 昌宏氏

大阪教育大学学校安全推進センター准教授
(精神科医)

「親を亡くした子供の心のケアについて」

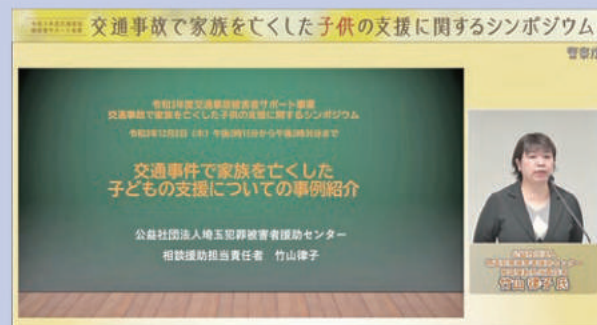


親を亡くした子供の心のケアに関する講演

対応事例: 竹山 律子氏

公益社団法人埼玉犯罪被害者援助センター
相談援助担当責任者

「交通事件で家族を亡くした子どもの支援についての事例紹介」



交通事故で親を亡くした子供に対する支援活動の事例紹介

ご遺族による体験談の発表

子供の頃に交通事故で親を亡くされたご遺族の方々に体験談や感じたことなどをお話いただきました。

・専門家: 川本 哲郎氏

令和3年度交通事故被害者サポート事業検討会会長
元同志社大学教授、現同大学刑事司法研究センター
嘱託研究員

・パネラー: 体験談発表者3名

専門家を交え、ご遺族3名をパネラーとして、必要な支援や課題について意見を交わしました。

パネルディスカッション・質疑応答



・コーディネータ: 井上 郁美氏

令和3年度交通事故被害者サポート事業検討会委員
飲酒・ひき逃げ事犯に厳罰を求める遺族・関係者
全国連絡協議会幹事

「高校生向け自転車安全教育インストラクター (初級・中級・上級) 講習会」をオンラインで開催

高等学校では多くの生徒が自転車を利用して通学していることもあり、高校生の交通事故では自転車乗用中の事故が最も多くなっています。

当協会では、高等学校の自転車安全教育に寄与することを目的として、地域の交通安全教育センターとしての役割を担う自動車教習所の指導員を対象に標記講習会を開催しています。

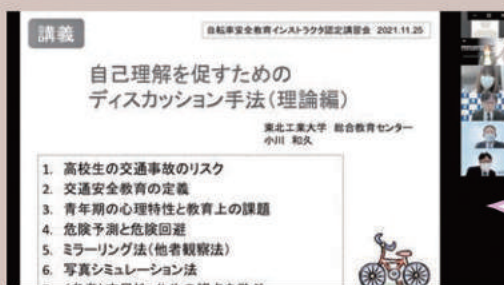
本講習会を受講後、認定要件を満たした受講者には、「高校生向け自転車安全教育インストラクター」認定証が交付され、さらに、一定要件を満たした自動車教習所に対しては、団体認定を行います。

今年はコロナ禍のためeラーニング(事前視聴)とZoomを活用したオンライン講習会を11月25日(木)(初級)、11月26日(金)(中級)、11月30日(火)(上級)に開催しました。



事務局

初 級



高校生に対する効果的な自転車安全教育の手法と知識を有するインストラクターを養成するために、屋外で実施する自転車教育手法の講義やディスカッション手法を活用した指導案の作成及び実演発表を行いました。

講義：自己理解を促すためのディスカッション手法(理論)
東北工業大学 小川 和久教授

中 級



初級認定者のフォローアップとして、「コーチング技法」の理論の習得により、指導者としての資質の向上と、実施の現場に必要な指導力・実践力の強化を図るとともに、オンライン授業(講習)の活用ノウハウの習得を目指しました。

講義：質問の技法(オープンクエスチョン・クローズドクエスチョン)

上 級



中級認定者のフォローアップとして、生徒のやる気を引き出し、自発的な行動を促すコミュニケーションスキルである「コーチング技法」に焦点をあて、アクティブラーニング手法を取り入れた教育を行う上での理論講義や協議、演習を行いました。

協議：実践を想定したシナリオ案作成
学校側から上がっている課題をもとに実施する内容を検討